

解答範囲は、解答番号

1

 から

28

 までです。

〔二〕 左の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、本文中の傍点は原文についているものです。

【引用部分は削除しています】

【引用部分は削除しています】

〔注〕

○マジョリテイ＝多数派のこと。 ○Z・バウマン＝ジグムント・バウマン。ポーランド出身の社会学者。代表作として、流動化する現代社会を分析した『リキッド・モダニティ―液化化する社会』がある。一九二五―二〇一七。 ○ステイグマ＝烙印を意味する古代ギリシア語に由来する。特定の属性や人々に対する、差別や偏見を伴う評価のこと。 ○G・アガンベン＝ジョルジョ・アガンベン。イタリアの哲学者。『例外状態』や『剥き出しの生』といった概念を用いて、権力のあり方を分析した。一九四二―。 ○額田縣＝日本の医師。神戸にあるみどり病院の院長を務め、阪神・淡路大震災以降は被災者支援の問題に取り組んだ。一九四〇―二〇一二。 ○釜ヶ崎＝大阪市西成区の一部を指す通称。 ○寄せ場＝日雇い労働者とその仕事を斡旋する業者が集まる場所。 ○岩田正美＝日本の社会福祉学者。貧困や社会的排除を専門とする。一九四七―。

〔西澤晃彦「貧者の領域―誰が排除されているのか」による〕

一般選抜入試(前期日程) 国語(1月29日)

問一 傍線部⑦～⑩にあたる漢字を、次の各群のうちから一つずつ選びなさい。

解答番号

1 4

⑦ セン ① 選
④ 宣 ③ 戦 ② 千
① 足
⑧ ホソク ④ 捉 ③ 促 ② 促

⑨ シヨザイ ① 所
④ 緒 ③ 署 ② 諸
⑩ ジリヨク ④ 磁 ③ 治 ② 地 ① 自

問二 傍線部①「そういうこと」とありますが、どういうことですか。その説明として最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号

5

- ① 排除は意図的になされるのではなく、「よき国民」たちのはんの少しの配慮の欠如や制度の些細な不備が積み重なって生じるものであるため、排除が社会的な処刑だとは言えないということ。
- ② 住居を持つことを基準とする社会的制度や福祉行政によって排除がなされるにもかかわらず、そのことが当然視されているため、排除は社会的な処刑ではないと考えられているということ。
- ③ 排除は人々や行政の悪意からなされるだけでなく、履歴や住所を持たない野宿者たちの怠慢や愚かな自業自得によって生じるため、排除が社会的自殺の結果でもあるということ。
- ④ 野宿者たちは、都市のマジョリティと異なる空間を自ら選び、定住を基準とする社会に積極的に参加しようとするが、そのことに失敗した結果、社会的自殺へと追いやられてしまうということ。

問三 空欄 A ～ C を補うのに最も適当な組み合わせを一つ選びなさい。

解答番号

6

- ① A 都市 B 包摂 C 病人
- ② A 無機的な風景 B 現実主義 C よき国民
- ③ A 定住家族 B 排除 C 定住者
- ④ A 組織・定住社会 B 温情主義 C 高齢者

問四 空欄 a ～ d のいずれかに次の括弧内の一文が入ります。挿入すべき位置として、最も適当なものを一つ選びなさい。なお、石原吉郎(一九一五～一九七七)は日本の詩人であり、シベリア抑留の経験を後になってエッセイに著した人物です。

解答番号

7

「石原吉郎が、シベリアでの収容所生活について、「誰もが、「しばらくは死なないだろう」という裏返しの納得で、かろうじて生きようとする意志を表明していたにすぎない」と述べていたことが想起される。」

- ① a ② b ③ c ④ d

問五 傍線部②「彼らは、ただ否定すべきものとして自己をみているわけではない」とありますが、その説明として最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号

8

- ① 野宿者の多くはかつてマジョリティであったため、自己否定に陥ることはなく、例えば経済的自立を肯定する論理を用いて、無理なく自己を肯定することができると述べている。
- ② 野宿者は、自らを否定するマジョリティの論理を拒否し、炊き出しを利用しないことこそ自立であるといったマジョリティを否定する論理を構築することで、自らを肯定している。
- ③ 野宿者は、マジョリティから排除されたという過去によって、自己だけではなくマジョリティに対する否定感情を持ち、その感情を、野宿生活を生き延びる原動力にしている。
- ④ 野宿者はマジョリティの価値観を内面化しており、それゆえ自己否定せざるを得ないが、それでもマジョリティの論理を用いながら、何とか自らを肯定しようとする。

問六 傍線部③「檻のない牢獄の例外性をよく示すのは、頻発する野宿者への襲撃であろう」とありますが、その説明として最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号

9

- ① 野宿者への襲撃は、非人間に対する暴力として「事件化」されない場合すらあるが、そのことは、「檻のない牢獄」において法的秩序が十全に機能していないことを示している。
- ② 野宿者への襲撃はしばしば「狩り」と呼ばれるが、そのことは、「檻のない牢獄」が、強制収容所のように明文化された厳密なルールによって管理されていることを示している。
- ③ 襲撃者は野宿者を何としてもよい存在として扱うが、そのことは、「檻のない牢獄」において野宿者が本能や悪を体現する「刻き出しの生」として存在することを示している。
- ④ 襲撃者は野宿者に対して法では裁けない残忍な暴力を振るうが、そのことは、「檻のない牢獄」において襲撃者が法を超えた全能の存在として君臨していることを示している。

問七 傍線部④「孤独死」、傍線部⑤「緩慢な自殺」とありますが、その説明として最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号

10

- ① 被災者の「孤独死」は貧窮を原因とするものであり、アルコールによる「緩慢な自殺」とは異なる。
- ② 「孤独死」の人々は、無力感やあきらめのなかで「緩慢な自殺」を選び取るという点では、野宿者とは異なっている。
- ③ 被災者の「孤独死」において「緩慢な自殺」と自殺は同一だが、野宿者の「緩慢な自殺」は自殺とは異なっている。
- ④ 被災者の「孤独死」は「緩慢な自殺」と重なりうるが、「緩慢な自殺」は生にとどまる可能性を有している。

問八 この文章について説明したものとして、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 11

- ① 「よき国民」と野宿者の関係を都市空間の構造から分析することで、「よき国民」が作りだした「檻」のなさという物理的構造がいかに野宿者の尊厳を奪うかを明らかにした文章である。
- ② 野宿者たちの生きる世界を、開いた見方を示そうとする文章である。
- ③ 野宿者に対する排除や襲撃を放置して見ぬふりをするマジョリティの態度を批判的に検討し、マジョリティが野宿者たちを「緩慢な自殺」に追いやるプロセスを精緻に分析した文章である。
- ④ 野宿者という存在がなぜ生じるかを、都市空間における排除、福祉制度の欠陥、法や警察の機能不全などの複数の要因の重なりあいとして分析し、個々の課題解決の必要を主張する文章である。

問九 この文章の内容に明らかに合致しないものを一つ選びなさい。

解答番号 12

- ① 野宿者は都市のマジョリティから隔絶され不可視化されており、その姿を都市で見出すことは困難となっている。
- ② 福祉の対象となるカテゴリーに属さない野宿者は、保護を受けられず、野宿生活以外の選択肢を持たない。
- ③ 「檻のない牢獄」は、野宿者を閉じ込め無力化する空間であり、そこで野宿者はあきらかに支配されていく。
- ④ 「剥き出しの生」へと還元されているように見える野宿者の内に、奪われたはずの主体性を見出す必要がある。

(二) 左の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、本文中の傍点は原文についているものです。

【引用部分は削除しています】

【引用部分は削除しています】

【引用部分は削除しています】

(荒俣宏「理科系の文学誌」による)

- (注)
- A・ホルデン＝アメリカの物理学者。一九〇四―一九八五。
 - P・シンガー＝アメリカのファー・ブルック・スクールにおける数学と美術の教師。生没年不詳。
 - 組成＝化合物を構成する成分およびその量の割合。
 - ルヴォフ＝アンドレ・ミシェル・ルヴォフ。フランスの生理学者、生物学者。一九〇二―一九九四。
 - イタロ・カルヴィーノ＝イタリアの作家。一九三二―一九八五。
 - Quartz＝カルヴィーノ「結晶」の作中人物・語り手。
 - 岩漿＝地下の深部に生じる高温の溶融状物質。マグマ。
 - 三稜形＝三つの角をもった形。三角形。

問一 傍線部①「水晶とガラスのところが違うのか」とありますが、本文中の説明として明らかにふさわしくないものを一つ選びなさい。

解答番号 13

- ① 水晶球は占いや予言にしばしば用いられるが、安い日用品のガラス球では予言できない恐れがある。
- ② 水晶は分子構造が安定しているが、ガラスは液体が急速に冷却されたものであるため、分子構造が不安定である。
- ③ 水晶は固体であるため結晶質であるが、ガラスは分子の結合性からいえば液体であるため、結晶質ではない。
- ④ 水晶は時間とは関わりなく存在しているが、ガラスはもともと液体であるため、数百年も経てば形が崩れる。

問二 傍線部②「まがいのもの」とありますが、そう感じられる理由として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 14

- ① ガラスは材質的には水晶と同じ成分なのに、その硬度が水晶に比べて低いから。
- ② ガラスは本質的には水晶と同じ固体なのに、その成分が結晶質とは異なるから。
- ③ ガラスは形態的には水晶と同じ球形なのに、その価格が水晶に比べて安いから。
- ④ ガラスは色彩的には水晶と同じ透明なのに、その分子構造が整っていないから。

問三 空欄 I と II を補うのに最も適当な組み合わせを一つ選びなさい。

解答番号 15

- ① I とはいえ II やはり
- ② I さて II けれども
- ③ I むしろ II ゆえに
- ④ I ところで II そこで

問四 空欄 a 〃 d のいずれかに次の括弧内の一文が入ります。挿入すべき位置として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 16

「かれはどうとう地球自体をもガラスとみなすのだ。」

- ① a ② b ③ c ④ d

問五 傍線部③「地球は醜い非結晶固体」の説明として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 17

- ① 「地球」には、自らが結晶である人間だからこそ感じとる、固い分子配列の整然とした美しさがない。
- ② 「地球」には、定まった形がないまま不規則に膨張しつつける、「瘤」のような隆起がある。
- ③ 「地球」には、十分に長い冷却期間を経て織りなされた、分子構造の美しい幾何学模様が見られない。
- ④ 「地球」には、分子同士が固く結合しているがゆえの脆さや、ゴムのような柔らかさがある。

問六 傍線部④「甘い畏」の説明として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 18

① 実際にはそこは透明な物質によって構築された夢の世界でしかないが、水平や垂直の軸線や左右対称の角などの規則的な空間構成によって、現実の結晶体の中にいるのだと思いきませようとする畏。

② 実際にはそこは鋭い尖塔が立つ幾何学的な構成を持つ空間であるものの、道の両側にガラスの固体を点在させることによって、そこをまがいのの世界だと信じこませようとする畏。

③ 実際にはそこは合同形の二面体など幾何学的には存在しえない要素で構成されているものの、結晶を想わせる空間配置によって、あたかもそれが物理的に実在する世界だと錯覚させようとする畏。

④ 実際にはそこはガラス製の世界でしかないものの、角柱の群れや直行する街路など一見すると幾何学的に構成された空間によって、結晶世界への《進化》が実現したと勘違いさせようとする畏。

問七 空欄 X を補うのに最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 19

① 結晶になる夢

② 恋のまぼろし

③ 自己の内面

④ ガラスの世界

問八 この文章の内容に合致するものを一つ選びなさい。

解答番号 20

① 一般的に結晶構造の分子によって構成される固体の唯一の例外は、急激に冷却されることで分子が結晶化せず液体が固まっただけのガラスである。

② 遺伝情報を親から子へと伝えていく染色体は結晶体だと生理学者ルヴォフは述べているが、それは幾何学的な分子構造を持つという点で水晶と同じである。

③ イタロ・カルヴィーノの小説『結晶』の作中人物ウグは、世界の秩序を純粋な結晶質に見出しつつも、不純さを含むガラスの世界への安住を望んだ。

④ イタロ・カルヴィーノの小説『柔かい月』と『結晶』は、月と地球を非結晶のガラス質として描きつつも、それが結晶へと変化していく臨界点を描いている。

〔二〕左の文章は、南北朝時代の女房・日野名子の日記「竹むきが記」の一節です。名子は、光厳天皇に仕える貴族・西園寺公宗との結婚を間近に控えていました。しかしその頃、光厳天皇と対立する後醍醐天皇の軍勢が都に攻め込もうとしていました。これを読んで、後の問いに答えなさい。

世の中、今日や今日やと思ひつつ、卯月二十日あまりになりぬ。事のつるでをなす求められたるとて、まだ宵のほどに立ち寄り給へる。ほどなく鳥の声、鐘の音、こなたかなたに聞こゆ。「そら音にこそは」などおほめき給ふさまなるに、「明けなほ、いと便悪しかるべきを」と度々おとなへば、妻戸押し開けられたるに、有明の月いとやかにて、軒近き萩の葉も、なべてこの頃のほどもあらず高やかなるに、ひまなく置き渡して下葉もかくれなき露の光など、秋の空めきたる暁の眺めは、さらでもあはれなるべきを、これや限りとなべて世を思ひ乱れたる折からのあはれに、まして行くもとまるもいと心細し。

明けはなる気色なれば、鬘櫛など召して立ち出で給ふ。端もさながらにて打ち臥しつゝ、なほ眺め出でたるに、にはかに空さへかき曇りて、わづかに残りつる月影も見えずなりぬれば、何となく思ひ続けられしををかし。

いかげせむ面影慕ふ有明の月さへ曇る X 空

東国の夷ども近づくと聞こゆれば、皆人色を直すほどに、梓弓のよそに引き違へぬるあやなさは、あさましといみじとも言はむ方なし。(中略)五月七日、六波羅の四方に押し寄せて、打ち囲む。聞こえつる事なれど、さしあたりではあきれ惑はる夜に入りて火をかけぬれば、煙の下に見やり聞こゆる心の中どもは、夢うつつとも思ひ分かれず。さすが火の中をば逃れさせ給ひぬるにやと、魂も身にそはず思ひ明かしたるに、東さまへなりぬと聞こゆるも、その行く先頼もしかるべきにもあらねば、さてしみが聞きなし奉らむと、かきくれつつ思ひ惑ふ。

いつしか人の心もあらぬ世になりぬれば、憤むべき事ありて、この宿も浮かれ出でつゝ、御堂にまづ忍びて移りつゝ、九日、ふと里に帰りぬれど、これも怖畏あるべければ、安居院の寺に知るたよりあれば、忍びて立ち入りぬ。十日、かの御方なる女房、この寺に知る人あるをたよりにて、我が行方尋ねらるるなるべし。御供に付き聞こえ給ひけるを、人々とかく心を合はせて、御

道より落とし聞こえければ、本意なき事に思ひ嘆き給ふさまなど語り聞くにも、御行方知らぬ御事どものみ、いとど悲し。此所にありとて喜びつつ、やがて車あれど、ゆくりなく浮かれ出でむいかならむと慎ましかれば、動くべき心地せぬを、人々も動むれば、心弱くぞ立ち出でぬる。妙音堂に車寄せて下りぬ。あからさまと出でぬるまゝにて、いと浮きたる心地して明かし暮らす。(中略)

五月二十七日、御所さま都に返り入らせ給ふ。親はからかも苔の衣に立ち返りぬと聞くにも、さらに驚かるる世になむありける。とにかくにいみじき事のさまにつけても、帰らむ事をのみとかく聞こゆれど、あからさまをだに許されなし。文をだにと思ふ方々あれど、さやうに書き散らしつつ散りばはむも、いものしかるべしなどあれば、それさへかき絶えつつ、直屋隠りにいふせきさまを、思はずに思しのたまふ人々もあらむかしと、心より外なる身をさへぞ思ひ乱れける。

さるは、かく後れ聞こえ給ひし事の、心より外なる嘆きをのみ思ひ結ばれ給ひつゝ、世をや背かましなど、いと頼もしげなき事をのみあれば、「かく直路に成し果せても、中空にさへや」と、ほどなき身をさへ扱はるるもいとはかなし。思し立つ筋もまことしくのみあれば、持明院殿よりもささまに、あるまじき由のたまはする事どもあれど、なほいかなるべき世にかと思ふほどに、誰々とかく聞こえ給へばにや、さすが少し心のどかなるさまにぞなりぬる。

(日野名子「竹むきが記」による)

〔注〕○事のつるで＝外出の機会。○立ち寄り給へる＝公宗が名子のもとにお立ち寄りになった。このとき名子は、現在の京都市東山区清水にあった家にいた。○おほめき給ふ＝とほけていらつしやる。○おとなへば＝従者が催促するので。○妻戸＝建物の隅にある両開きの板戸。○鬘櫛など召して＝櫛で髪を整えたりなどなさつて。○端もさながらにて＝縁側を開け放つたままで。○東国の夷ども＝ここでは鎌倉の軍勢のこと。○六波羅＝六波羅探題。現在の京都市東山区に置かれた鎌倉幕府の政庁で、当時は光厳天皇と、その父・後伏見院、叔父・花園院たちがいた。○東さまへなりぬ＝東へと落ち延びられた。○御堂＝未詳。清水寺の堂か。○里＝名子の

一般選抜入試(前期日程) 国語(1月29日)

父・日野資名の邸。現在の京都市中京区と上京区の境の辺りにあった。○怖畏^{おそ}敵に発見される恐れ。○安居院の寺^い諸説あるが、現在の京都市上京区の辺りの寺の意。○かの御方なる女房^い公宗に仕えている女房。○妙音堂^い西園寺家の山荘・北山殿の中の仏堂。現在の京都市北区にあった。○御所さま^い光厳天皇・後伏見院・花園院。○親はらから^い父・資名と、兄・房光。○昔の衣に立ち返りぬ^い出家した。○散りばはむ^い散らばって人目に触れるのも。○かく直路に^い中空にさへや^いこのようにひたすらあなたをここに留めても、私が出家したら中途半端なことになってしまう。○持明院殿^い後伏見院。

問一 傍線部①「いとさやかにて」の「に」と文法的意味が異なるものとして、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 21

- ① すすくと大に^いなりまさる
- ② 上人の感涙いたづらに^いなりけり
- ③ せむ方もなくてただ泣きに^い泣きけり
- ④ 人のもの言ひのあやにくには^いべれば

問一 空欄 X を補うのに、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 22

- ① きぬぎぬの
- ② あしひきの
- ③ たそかれの
- ④ さみだれの

問三 傍線部②「さすが火の中をば逃れさせ給ひぬるにや」の解釈として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 23

- ① いくらなんでも、光厳天皇たちが火の中をお逃げになることはできなかったはずだ。
- ② それでもやはり、光厳天皇たちは火の中をお逃げになったことであろうか。
- ③ いくらなんでも、公宗が光厳天皇たちを火の中からお逃がせ申し上げることはできなかったはずだ。
- ④ それでもやはり、公宗は光厳天皇たちを火の中からお逃がせ申し上げたことであろうか。

問四 傍線部③「本意なき事」とは、どのようなことを指していますか。その説明として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 24

- ① 名子が、軽率にも清水の家を出てさまよい歩き、自分の行方を公宗に知らせなかったこと。
- ② 公宗が、彼自身の望みに反して、東へと落ち延びる光厳天皇たちのお供から外されたこと。
- ③ 人々が、卑怯にもさまざまな理由をつけて、女房が名子のお供をするのを邪魔したこと。
- ④ 光厳天皇たちが、人々の願いもむなし、東へと落ち延びる途中で行方不明になったこと。

問五 傍線部④「直屋隠りにいふせきさまを、思はずに思ひのたまふ人々もあらむかし」の解釈として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 25

- ① ひたすら家に籠もりきりで、おびえている様子の公宗を、情けないことだと残念に思いになり、そうおっしゃる人々もいてほしいものだ。
- ② ひたすら家に籠もりきりで、落ち込んだ様子の公宗を、理解できないことだと疑問に思いになり、そうおっしゃる人々もいるだろう。
- ③ ひたすら家に籠もりきりで、悲しみに沈む様子の私を、それも当然のことだと気毒に思いになり、そうおっしゃる人々もいてほしいものだ。
- ④ ひたすら家に籠もりきりで、気が晴れない様子の私を、思いがけないことだと不快に思いになり、そうおっしゃる人々もいるだろう。

問六 傍線部⑤「あるまじき由」とは、具体的にはどのようなことですか。その説明として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 26

- ① 公宗が嘆き続けているのはよくないということ。
- ② 公宗が出家してはならないということ。
- ③ 公宗が頼りにならないはずがないということ。
- ④ 公宗が名子を家に留めるはずがないということ。

問七 この文章の内容に合致するものを一つ選びなさい。

解答番号 27

- ① 公宗は、夜になって間もない頃に清水の家に来て、夜明けが近づいてもなかなか帰ろうとしなかった。
- ② 名子は、公宗と別れる際に見た眺の景色があまりに趣深かったため、もう二度と見られないうと思った。
- ③ 人々は、鎌倉の軍勢が都に近づいていると聞いて驚き恐れたが、偽の情報だと分かると安心した。
- ④ 安居院の寺に身を隠していた名子は、公宗に仕えている女房が無事であったことを知って喜んだ。

問八 「竹むきが記」が成立した時代起こった動乱を描いた作品を一つ選びなさい。

解答番号 28

- ① 「保元物語」
- ② 「平治物語」
- ③ 「平中物語」
- ④ 「太平記」